

第102回

中小企業のM&A

経営者の高齢化に伴って起きる事業承継問題。解決の1つのアプローチとなり得るのがM&Aの手法である。M&Aを問題なく遂行するためには、その企業が抱える問題やリスクを正確に把握して売り手と買い手が納得する形で承継が行われることが肝要といえる。(本コラムは、9月9日号掲載分のつづきとなります)

M&Aの過程において、リスクもありますが、て、欠かせないことの中に承継後に発覚する一つがデューデリジェンスです。企業が潜むリスクや問題を把握し、これらをどのような形で承継していくかという話し合いが大きな内容となつています。実際、どのようなリスクがあるかという件として、専門家やデューデリジェンスをしていくか、従業員の間にもあるケースがあり、払い残業がないか、簿外資産、簿外債務はないか、連帯保証はどのようになっているか、税務リスクなど、掘り起こす過程において、様々な問題に直面することがあります。これらF&Aがある場合にはF&Aを通して、双方が誠実に情報共有して、納得のいく承継に向けて話し合っていくことが必要不可欠になります。またこのように事前

いでしょうが、中小企業にとっては日々の資金繰りがとても大きなことであり、多額の資金をもち合わせているというケースは少ないのではないか。資金調達の一つとして、銀行からの借入がありますが、M&Aの融資においては、それぞれの金融機関において、その専門チームがあることが多く、通常の融資とは異なり、M&Aの対象会社の信用力が審査対象になるケースが多くあります。その際の金融機関の判断材料として、デューデリジェンス報告書や対象会社の過去の決算書類を見て判断することが多くあります。その際に見ている数値の一つが、EBITDAです。EBITDAとは財務指標の一つであり、企業の純粋な収益力を示す指標として、M&Aの際には多く用いられています。EBITDA

EBITDAとは色々な計算方法があり、一般的に「営業利益」で計算されています。そして、両者が合意した上で契約締結とされるクロージングを迎えることとなります。しかし、このクロージングでM&Aが無事終了するということが、M&Aが成功となるかどうかは承継後のP&Mに大きく関係してきます。そこには重要な役割を果たすのが、売り手と買い手が十分に対話を重ね、それぞれの方向性を明らかにし、それに向けて計画を立てて協力していくことです。このポイントを大事にしてクロージングまで進めてきたか、ということが承継後に大きくかかわってきます。

今月の筆者

●プロフィール

2015年4月 税理士事務所エールパートナー開業、不動産オーナーの節税や相続対策、補助金や資金調達、資金繰りの支援、企業のM&A支援などを中心に、関与先件数は221件。女性だけの会計事務所として女性が子育てしながら働きやすい職場を実践しており、2023年に月刊実務経営ニュースに取材を受ける。税務調査対応に強く、税務調査の実態のコラムを執筆している。



税理士事務所エールパートナー
フロンティア行政書士事務所
税理士・税務士・ファイナンシャルプランナー
木戸 真智子

コラムのご感想・ご意見は下記まで!

一般社団法人不動産ビジネス専門家協会
東京都千代田区神田東松山下町28番地
小林ビル101 (☎03-3527-1876)
<http://www.fudosan-pro.biz/>